

## 令和元年度 地域とともにある学校づくり研修会「コミュニティスクールの可能性」実施報告

上田市では、平成 20 年度より、国のコミュニティ・スクール及び、学校支援地域本部事業に取組み、平成 29 年度より市内すべての小中学校で信州型 C S に取組んでいる。この事業について理解を深め、活性化するためには、コーディネーターやボランティアの学びとネットワークづくりや学びの場が不可欠であり、その研鑽の機会としたい。

|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|-----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| ■ 日 時                 | 令和元年 1 1 月 1 1 日（月）午後 3 : 00 ~ 5 : 00                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| ■ 場 所                 | 上田市交流文化芸術センター サントミュージーゼ 小ホール                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| ■ 参加者                 | 1 1 5 名<br>(ボランティア、コーディネーター、学校評議員、保護者、行政関係者等)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| ■ 内 容<br>講演<br>(90 分) | <p>「コミュニティスクールの可能性 – 子どものみらいのために、まちのみらいのために – 」</p> <p>講師 竹原 和泉 さん<br/>           * N P O 法人まちと学校のみらい 代表理事<br/>           * 文部科学省コミュニティスクール推進員</p>  <p>【地域とともにある学校づくりとは】</p> <p>「なぜコミュニティスクールをするのか」「なぜ地域とともにある学校づくりなのか」と問われたら、「子どものみらいのために」と答えます。それは、一人ひとりの子どもが健やかに育つためにという個人的な面と、子どもをしっかりと育てるということは、未来の社会を創っているのだという広義的な面、2 つの側面があります。皆さんの子ども時代のことを思い出してみてください。どんな光景が浮かびますか。教室の中ですか？学校の敷地？川とか山とかの地域の風景でしょうか？子どもというのは、教室の中だけで育つわけではありません。人と人のつながりの中で成長します。このように社会総がかりで子どもの育ちに関わる仕組が「コミュニティスクール」です。かつての日本には「おらがまちの学校」ということが当たり前が存在していました。その「おらがまちの学校」を新しい社会課題にあった形にしていける仕組が、コミュニティスクールです。</p> <p>【コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的推進】</p> <p>コミュニティ・スクールとは、「学校運営協議会」を設置している学校のことです。教育委員会が学校や地域の実情に応じて設置することができる法律に基づいた組織で「合議体」です。また、協議会のメンバーは「最大の応援団」で「辛口の友人」でもあります。この協議会と、実動部隊である「地域学校協働活動（ボランティア活動）」が連動して、一体となって取組を推進していくのが「コミュニティスクール」です。</p> <p>＜学校運営協議会で大切なこと＞ → 従来の紋切り型の会議でなく、生きた会議を！</p> <p>①委員の選定（バリエーション豊かなメンバー、当事者意識）<br/>           ②ファシリテーション・熟議</p> <p>「<u>コミュニティスクールは、漢方薬</u>」です。即効性はないが、じわじわと効いてくるものです。</p> <p>【地域とともにある学校の事例】</p> <p>1 市ヶ尾ユースプロジェクト（中学校 + 高校 + 地域住民 + 行政 + 企業 + 商店街等）</p> |

## (1) キャリア教育

職場体験や地域学習を通じての協働を中学校と高校 6 年間をかけて学習します。職場体験の事業所の紹介はもとより、模擬面接の面接官を地域住民が担います。もともと、学校ニーズ（模擬面接官が欲しい）があり、それに地域が応えるかたちで始まった取組です。学年 250 名の生徒に対して 25 名ほどの地域の方々が、正装をして面接に臨み、終了後、中学生は全員、地域の方から「いい子だったよ」と褒めてもらいます。この取組では、中学生と地域の大人の直の交流が生まれ、互いの愛着を生むことになりました。

## 2 東山田中学校区コミュニティカレンダー

コミュニティスクールブロックの 1 中学校と 3 小学校の年間計画と地域の行事を網羅した地域のカレンダーを作成することで、情報の共有を図っています。

小中学校の学校行事や地域の情報、防災・防犯、交通情報（電車・バス時刻表）、コミュニティの地図などを掲載し、地域の情報を網羅したカレンダーです。

- ①カレンダーができたことで、学校の休日や下校時間等を知ることができ、子どもの見守りが進んだ。
- ②カレンダー作成には、現役世代のボランティア（PTA で広報担当の OB・OG）が活躍。
- ③学校行事がわかることで、商店街の仕入れ（お弁当材料等）の目安となり、好評。
- ④学区内の病院の情報を掲載することで、各病院から協賛金。
- ⑤カレンダー内のイラストは、地域のお年寄りが、昔の東山田地域を描いたものを使用。
- ⑥学校は、年間計画表を提出するだけ。

以上のような、きめ細やかな配慮がされています。

## 【支援から、連携・協働へ】

コミュニティスクールに取組むというと、何か新しいことを始めなくてはいけないのかというとそうではなくて、「今あるもの」や「この地域ならではの」一つのテーマでつながればよいと思います。

※支援：足りないもの・困っていることを助けること

連携・協働：異なった立場の人が、同じ目的のために、対等な立場で活動すること

これからは、連携・協働が大切です。そして、学校と地域は、イコールパートナーとして「一緒にやる」という文化を醸成していきたいと願っています。まず、多様な大人同士が仲良くなるのが一番です。

## 【これからの地域と学校】

### 1 今後必要になる教育

人生 100 年時代を生きるために、「学び続ける力」を身につける必要があります。そのためには、子ども時代からいろいろな経験や、さまざまな人との出会いができる、また、安心して失敗することができるような社会を創りたいと思っています。大人が用意しすぎず、先回りせず、本物と出会えるよう、子どもの本気をどう高められるかが問われています。

<いつの時代も大事にしたいこと>

- ①誰とでもコミュニケーションができる
- ②少しくらいのことではつぶれない
- ③自らの目標を定めることができる
- ④必要な時に必要な事を学ぶ習慣がある

### 2 社会に開かれた教育課程

「まちのたから」を学びに活かしながら、義務教育の 9 年間のカリキュラムに組み入れながら学んでいくことが大切です。カリキュラムに取り入れられないものは、地域でやることも必要。

### 3 チーム学校

学校の教職員同士が、また、学校と地域が「チーム学校」として教育活動に関わるには、「場の力」も大切です。東山田中学校には、学校の敷地内に「コミュニティハウス」があり、そこで日常的な交流が行われ、偶発的な出会いが生まれ、関係づくりが進んでいます。ここでは、子どもも大人も一緒につどい学

ぶ場となり、地域と学校をむすぶ場（地域の縁側）にもなっています。上田市でも学校内の空き教室の活用等でやってみたらどうかと思っています。公民館と学校がつながるのもいいことだと思います。

#### 4 いざという時

学校と地域の連携・協働が進むと、いざという時（震災時等）の避難所開設や運営がスムーズだったということも言われています。熊本県益城町では、以前からコミュニティスクールに取り組んでいました。震災の際に学校が避難所になりましたが、学校運営協議会が中心となって、学校が再開したときに「体育の授業」ができるよう、グラウンドを開放しないことを決めたそうです。地域住民が中心になって、決めたからこそ実現できたことです。学校だけがこの決断を背負ったとしたら、こうはいかなかったと思います。また、地域ががっちりと守ってくれたので、先生方は生徒と向き合うことに集中できたとのこと。

#### 【まとめ】

子どもたちを取り巻く環境や、学校が抱える課題は複雑化・多様化していきます。「地域とともにある学校」というのは、多様な文化や価値観を学校に取り込むことで、学校の文化に「風」を入れることです。新しい学びです。社会総がかりでの教育が必要です。

「学校は、教育サービス」で、「保護者は、教育サービスの受給者」となってしまう日本の学校に多様な文化や価値観を持つ地域住民が、仲間として、それぞれの良さや強みを活かして、協働し、「よりよい学校」を創っていくことが「地域とともにある学校」です。そうして、子どもたちのために学校をよくしたい、元気な地域をつくりたい、という「志」が集まる学校へ。誰かが助けてくれる、のではなく、自分たちが、自分たちの学校・地域を、自分たちの力で再生させていく。多くの人々が「当事者」として行動する。それが、コミュニティスクールです。地域で深い学びをした子どもは、地域に戻ってくるそうです。そんな未来のまちづくりにつなげたいと思います。

#### 【映像】 視聴

「東山田準工業地域

～9 歳へ贈る 準工業地域で働く大人たちの思い～」



#### 質疑応答

Q 地域の方々が支援から協働に、「当事者」として意識が変わっていく時に共通する要素は？

A 学校の要請で、お手伝いとして参加して、子どもと関わっていくうちに子どもたちに愛着を感じ、主体的な関わりに変化していった場面に多く遭遇します。ただ、続けていくうちに我流のやり方になってしまうこともあるので、常に初心に帰る意味においては、研修をしたり、学び合ったりする機会（ミーティング）を持つことも重要だと思います。

Q コミュニティスクール（学校運営協議会）の課題や問題点は？

A 学校運営協議会は法的な存在（地方教育行政の組織及び運営に関する法律で認められた組織）です。もし可能ならば、年間 5～6 回の開催を目指したい。また、学校管理職だけでなく、幅広く一般の教職員の声を聴くことができる機会を設けたい。広島県では、運営協議会の様子を、映像を通してリアルタイムで発信し、職員室でも視聴できるような工夫をしている学校もある。

看板が付いただけでは、本物のコミュニティスクールにはならないし、特に、一般の先生方の理解が進まないうちは、この活動が根付いていかないと思います。

|                     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>御礼のことば<br/>(</p> | <p>竹原先生には「コミュニティスクールの可能性」というテーマで、豊かなご経験をもとにわかりやすく、示唆に富んだ御講演をいただきましたことに感謝申し上げます。</p> <p>子どもたちは教室の中だけで育つのではなく、つながりの中で育つこと。その時間軸・空間軸をつなぐのは大人の役割であること。異なった立場にあっても、子どもたちをまんなかに対等な立場で、同じ目的を持って合意形成していくことがコミュニティスクールの役割だと教えていただいた。</p> <p>子どもたちを取り巻く環境は、非常に厳しいものもあるが、コミュニティスクールを通して、こんな学校、こんな地域、こんな社会ができたら、子どもも学校も地域も、そして保護者も幸せな気持ちになれるのではないかなという未来への明るい展望を感じた。</p> <p>人生 100 年時代を生きるために、「学び続ける力」を身につけることが必要で、そのためには、子ども時代からいろいろな経験や、さまざまな人との出会いができる、また、安心して失敗し、そこから学ぶことができるような場が必要だと教えていただいた。何より「やってみよう」という気持ちにいただいたことに感謝したい。</p> <p>今後もさらに、皆が持っている力や強みをはっきしていただいて、笑顔で歩んでいかれればと思う。</p>                                                                                                                                      |
| <p>成果と課題</p>        | <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 文部科学省コミュニティ・スクール推進員をお務めいただいている竹原和泉先生より、長年の実践や豊かなご経験に基づき「地域とともにある学校づくりの目指す姿」について、学ぶ機会となり、大きな示唆をいただくことができた。</li> <li>■ 上田市のコミュニティスクールに関わる様々な立場の皆様に参加いただき、今後さらに取組を充実し、生涯学習として学び続ける大人たちの学び続ける姿こそが、活動のカギであることを知り、勇気をもらった。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 今後さらに、活動を充実し持続的な取組とするために何が必要か、皆で知恵を寄せ合って考える場を持ちたい。</li> <li>■ コミュニティスクールを考えるうえで、行政の枠を超え、地域振興や福祉の立場の人々とも協働する必要があると、強く感じた。また、取組を広報・周知していかなければならないと感じた。</li> </ul> <div data-bbox="427 1285 1433 1816">  <p style="text-align: center;"><b>地域とともにある学校づくり講演会</b><br/>主催 上田市教育委員会</p> </div> |

(文責 伴美佐子)